



京大広報

No. 546

2000 5



スタンフォード大学フーバータワー 関連記事本文885ページ

目次

大学の動き

- 部局長の交替等880
- トロント大学との合同セミナー開催880

部局の動き

- 寄附講座「分子免疫学・アレルギー学講座」の更新881
- 宙空電波科学研究センターの設置882
- UCLA 遠隔講義に関する討論会883

- 日誌884
- 訃報884

文化交流

- カリフォルニア・キュージーヌ 南 雅文...885

洛書

- ベルリンの壁と茶碗 柏倉康夫...886

保健コーナー

- 胃の感染症887

随想

- 多様化時代の地域づくりと社会基盤の整備計画 名誉教授 吉川和広...888

資料

- 平成12年度入学試験諸統計889

お知らせ

- 平成12年度創立記念行事音楽会893
- 附属図書館宇治分館の開館894

大学の動き

部局長の交替等

(新任)

薬学研究科長・薬学部長

川崎敏祐薬学研究科長・薬学部長の任期満了に伴い、その後任として中川照眞薬学研究科教授（創薬科学専攻薬品機能統御学講座担当）が、5月1日同研究科長・同学部長に任命された。任期は平成14年4月30日までである。



(再任)

エネルギー科学研究科長

伊藤靖彦エネルギー科学研究科教授（エネルギー基礎科学専攻エネルギー反応学講座担当）が、5月11日エネルギー科学研究科長に再任された。任期は平成14年5月10日までである。

生態学研究センター長

中西正己生態学研究センター教授（水域生態研究部門担当）が、5月1日生態学研究センター長に任命された。任期は平成13年3月31日までである。



トロント大学との合同セミナー開催

本学とトロント大学との合同セミナーが、3月28日(火)、29日(水)の両日、本学附属図書館A Vホールにおいて開催された。

このセミナーは、本学とトロント大学との学術交流に関する一般的覚書が締結された際の両大学の合意に基づき、平成6年に第1回が本学において、平成8年に第2回がトロント大学において開催されたのに続き、第3回として本学において開催されたものである。

セミナーには、世界的に切実な問題となりつつある高齢化社会に向けての学際的かつ現実的なアプローチを期待して、学内外の研究者・大学院学生延べ約80人が参加した。はじめに長尾 真総長の挨拶があった後、北 徹医学研究科教授及び西村周三経済学研究科教授がコーディネーターを務め、各セッションにおいてトロント大学と本学を始めとする国内外の大学教授等による講演及び参加者との討論が熱心に行われた。

第3回京都大学 - トロント大学シンポジウム “ 高齢化社会の学際的研究 ”

3月28日(火)

医療的側面からのアプローチ

Session I

司会 北 徹教授（京都大学）

“ Medical Aspects of Aging ”

講師 Michael Gordon 教授（トロント大学）

“ The Management of High Blood Pressure in the Elderly : Therapeutic, Economic, Preventive and Ethical Aspects ”

講師 Olaf Simpson 名誉教授

（オタゴ大学）

“ Advance in Clinical and Basic Studies on Atherosclerosis : The Current Status and the Future ”

講師 横出正之講師（京都大学）

Session II

司会 Michael Gordon 教授 (トロント大学)

“Community-Based Comprehensive Geriatric Intervention for the Elderly”

講師 松林公蔵教授 (京都大学)

“Immigrant Study on Cardiovascular Disease in the Japanese in Brazil from Okinawa”

講師 三浦綾子助手 (琉球大学)

Session III

司会 Peter Coyte 教授 (トロント大学)

“Japanese Longevity from Genetic, Environmental and Social Aspects”

講師 服部裕之医師 (兵庫県立塚口病院)

“Regional Variations of Health Status and Health Expenditures in Japan : Impact of Health Promotion Policy on Health Costs”

講師 西村周三教授 (京都大学)

3月29日(水)

社会保障的側面からのアプローチ

Session IV

司会 橋本俊詔教授 (京都大学)

“The Impact of Socio-Economic Factors on

Health in an Aging Population”

講師 Peter Coyte 教授 (トロント大学)

“Security for the Old-Age in Thailand”

講師 Supachit Manopimoke 助教授

(タマサート大学)

Session V

司会 森棟公夫教授 (京都大学)

“Aging and Social Protection in Singapore”

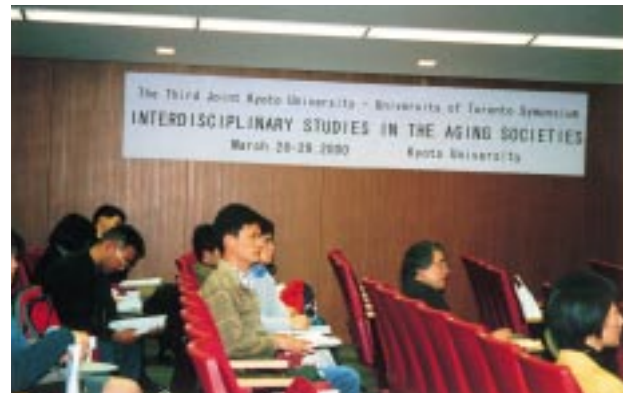
講師 Govindar Shantakumar 助教授

(シンガポール国立大学)

“New Zealand’s Income Support for Older People : An Example of Ambivalence and Uncertainty”

講師 Peggy Koopman-Boyden 教授

(ワイカト大学)



部局の動き

寄附講座「分子免疫学・アレルギー学講座」の更新

4月1日、医学研究科の寄附講座「分子免疫学・アレルギー学講座」が更新されることになった。

概要は次のとおりである。

- 1 部 局 名 医学研究科
- 2 名 称 分子免疫学・アレルギー学講座
- 3 寄 附 者 バイエル薬品株式会社
代表取締役社長
ヴォルフガング・プリシュケ
- 4 寄附金額 総額 200,000,000円 (分割納付)

5 更新期間 平成12年4月～平成17年3月

(5年間)

6 担当教員

教授相当 木梨 達雄

講師相当 片桐 晃子

助手相当 前田 明人

7 研究目的

インテグリンの接着性制御の分子機構及び免疫応答における役割を解明し、炎症性疾患の治療に役立てることを目的とする。

8 研究内容

インテグリンの接着を制御する分子を同定するとともに、免疫応答の *in vitro* 及び *in vivo* システムを確立し、その機能を解析する。

9 研究課題

(1) Rap1 及び R-ras によるインテグリン活性化の

分子機構

(2) インテグリン活性化におけるインテグリン細胞内領域の役割

(3) Rap1 及び R-ras のインテグリン接着制御の生理的意義に関する研究

(大学院医学研究科)

宙空電波科学研究センターの設置

平成12年4月1日をもって京都大学超高層電波研究センターは、宙空電波科学研究センターに改組・転換されました。「宙空」は大空から宇宙空間までの領域を指す言葉で、南極観測で知られた故永田武博士（東京大学名誉教授・元国立極地研究所長）が編み出された言葉です。新センターは電波を共通の研究対象・手段として、この宙空を占める地球大気やプラズマの諸現象の解明、及び電波そのものの新たな利用手法の確立を行い、宙空電波科学という新しい学問体系の創造と、社会からのニーズに応える人材の育成を目指します。

新センターの母体となった超高層電波研究センターが設立されたのは約20年前の昭和56年で、同36年にその前身であった工学部附属電離層研究施設が創設されてちょうど20年後のことでした。激しい国際競争に立ち向えるよう、約20年の間隔で2度にわたってセンターの組織を拡充・強化してきました。この間の約40年の歳月はその研究対象を、電離層（高度：百キロメートル近傍の薄い層）から超高層大気（高度：数十キロメートルから千キロメートルの領域）へ、さらにその領域を包含する宙空へと大きな広がりを持たせることになりました。新センターの研究活動も当然多岐に亘ることになりますが、そこには電離層研究施設の研究活動を特徴づけた、工学的手法で理学的研究をする、という学際的研究の雰囲気は今もなお脈々と流れつづけています。

本センターはMUレーダー（滋賀県信楽町）と電波科学計算機実験装置というユニークな大型設備を全国共同利用に供していることから、その研究活動は共同利用研究を介して国内外の多くの研究者に支えられています。一方、外部の研究者がこれらの設

備を利用して宙空電波の研究を推進したり、新たな研究分野を切り開くお手伝いをしています。これらの共同利用研究の成果が評価され、MUレーダーは2度に亘って性能の向上がはかられた他、平成10年度には先端電波科学計算機実験装置（A-KDK）も新たに導入しました。また、平成7年度には卓抜した研究拠点（COE）の研究機関に指定され、先導的研究設備としてマイクロ波電力伝送実験システム（METLAB）を建設しました。さらに本年度は可搬型の大型大気レーダーを初めて赤道直下のインドネシアに設置することになっています。新センターとなって、これらの設備を中心とする国際的な共同研究により、独創的な宙空電波科学研究が一層進展することを期待していただけるものと自負しています。

新センターは、3研究部門6研究分野2外国人客員分野で、教官総数は、20人（内3人は外国人客員研究員）となります。部門構成とその概要は以下に示すとおりです。

1. 地球電波科学研究部門 [大気圏光電波計測研究分野, グローバル大気情報解析研究分野, 大気環境科学研究分野 (外国人客員)]: MUレーダーを中心に光電波計測技術を駆使し、大気波動などの大気圏諸現象の複合観測を行うとともに、設備とデータベースを全国共同利用に供します。またグローバルな地上・衛星観測データ、及び数値モデルを用いて解析や定量的解釈を行います。さらに関連研究課題について国際共同研究を推進します。

2. 宇宙電波科学研究部門 [宇宙電波工学研究分野, 宇宙科学シミュレーション研究分野, 宇宙電波環境科学研究分野 (外国人客員)]: 宇宙空間における電

磁環境探査用機器開発とそのデータ解析を行います。また大規模計算機実験により宇宙プラズマ中の電磁波現象や飛翔体近傍電磁擾乱などの研究をします。さらに、宇宙太陽発電のシステム設計・基礎開発も行いその実証的研究を進めます。A-KDKの全国共同利用と国際共同研究を推進します。

3. 電波応用工学研究部門 [マイクロ波エネルギー伝送研究分野, レーダーリモートセンシング工学研究分野]: METLAB を用いた共同利用研究により, マイクロ波エネルギー送電に必要な電波技術開発,

及びMUレーダー電子制御技術を基盤とした先端的な大気レーダー・リモートセンシング技術,並びに, その利用技術開発など, 宙空電波科学に関連する電波応用技術の開発研究を推進します。

宙空電波科学研究センターは, 宙空の電波科学研究を国際的に主導する新センターとして21世紀に向けて新たに出立することができました。関係者一同これに伴う大きな責任は十分に自覚しています。今後も各方面の変わらぬご理解とご支援を, 重ねてお願いいたします。(宙空電波科学研究センター)

UCLA 遠隔講義に関する討論会

平成11年度後期に UCLA との遠隔講義を実施した。(京大広報No.540 1999.11に掲載) 講義科目は「宇宙科学」と「物理学入門」で, 10週間にわたって行われた。学生の評判は上々で, 遠隔講義を意識せずに講義に集中できたという意見が多かった。講義は情報メディアを介したバーチャルなものであったが, 講義終了後, 受講生の相互交流会を2回行った。

1回目は, 2月下旬に本学の遠隔講義受講生22人がロサンゼルスを訪れた。UCLAの学生の前で一人一人がプレゼンテーションを行った後, UCLA キャンパスの見学, JPL (ジェット推進研究所) の訪問などを通じて学生同士の相互交流を行った。本学高等教育教授システム開発センターの教官と UCLA の教官が共同で, 参加した日米双方の学生から遠隔講義に関する聞き取り調査を行った。

2回目は, 3月27日(月)に UCLA の遠隔講義受講生27人が京都を訪れ, 京大会館で本学の受講生29人も参加して総合情報メディアセンターで作成したCALL教材について討論会を行った。

討論会の冒頭, 長尾 真総長が歓迎の言葉を述べた。討論会終了後, 吉田キャンパスの見学, 宇治キャンパス超高層電波研究センターの見学, 座禅, 茶会などを通して交流を深めた。

この試みにより, 情報メディアを利用した遠隔講義が通常の講義と比べてどう位置付けられるのか,



超高層電波研究センターにて

という遠隔講義の効果や評価に関する UCLA との共同研究に対して, 貴重なデータが得られた。

また, 「宇宙科学」を受講した学生にとっては, JPL で宇宙開発の最新研究に触れる機会があっただけでなく, 超高層電波研究センターでの電波を利用したエネルギー伝送など最新の研究成果も見られ, 講義を補完, 発展させる良い機会であった。この試みは, 双方の学生が異文化交流を促進する貴重な機会であったことは言うまでもないが, 本学学生の英語力の向上には目を見張るものがあった。

これにより, 学生は通常の授業を受講するのと全く同じかそれ以上のレベルで遠隔講義を受講することが出来たと確信している。

ご支援を頂いた(財)京都大学教育研究振興財団に感謝する次第である。(総合情報メディアセンター)

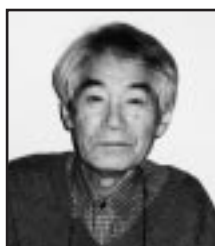
日誌 2000.3.1 ~ 3.31

3月7日	評議会	24日	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学 ロサンゼルス校 Robert LAPINER 生 涯教育担当部長来学, 総長及び関係教 官と懇談
"	大学院審議会		
"	保健衛生委員会		
8日	国際交流会館委員会		
10日	発明審議委員会	27日	附属図書館商議会
13日	入学者選抜学力試験(後期日程試験) (14日まで)	"	チェコ共和国 Josef HAVLAS 駐日特 命全権大使他2名来学, 総長及び関係 教官と懇談
15日	国際交流委員会		
17日	医療技術短期大学部卒業式	29日	安全委員会
"	放射線同位元素等管理委員会	30日	マレーシア Johari bin MAT 教育省次 官他1名来学, 総長及び関係教官と懇談
21日	評議会	"	総長, "科学及び工学における大学院 教育の現在と未来" 会議出席のため大 韓民国を訪問(4月1日まで)
"	教育課程委員会		
23日	修士学位授与式		
"	博士学位授与式		
24日	卒業式		

訃報

このたび、島田^{しまだ}虔^{けんじ}次名誉教授が逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。
以下に同名誉教授の略歴、業績等を紹介いたします。

島田 虔次 名誉教授



本学名誉教授島田虔次先生は、3月21日に逝去された。享年82。

先生は、昭和16年京都帝国大学文学部史学科を卒業後、長野県野沢高等女学校教諭心得、東方文化研究所助手、東海大学予科教授を経て、同24年京都大学人文科学研究所(東方部)助教授、同44年教授に就任された。昭和50年京都大学文学部教授に配置換となり、東洋史学第三講座を担当された。昭和56年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生の研究の中心は、中国近世近代思想史の研究であり、それは中国文化、なかでも儒教思想に対する限りない敬愛の念をもとに生み出されたものであった。昭和24年に出版された『中国における近代思想の挫折』は明代陽明学派の思想とその意義を考察

したもので、画期的な業績とされる。先生の研究はその後、一方で近代ヨーロッパの影響を受けた後の中国思想の展開に広がり、これは『中国革命の先駆者たち』、『新儒学哲学について - 熊十力の哲学』などとなって結実した。また一方で陽明学の前提であった朱子学の研究に向かい、『大学・中庸』、『朱子学と陽明学』などとなって表れた。

先生は、研究者としてだけでなくその卓越した人柄によって、数多くの優れた後進を育てられた。海外でも先生を敬愛する者は数多い。また先生の業績は、中国思想史や中国明清史などの専門分野で多大な貢献を果たしただけでなく、広く日本の学術思想界に、さらには世界の中国研究学界に大きな影響を与えてきた。

これら一連の功績により、平成9年日本学士院会員に選出された。

(大学院文学研究科)

文化交流

カリフォルニア・キューズ

南 雅文

1998年6月から10ヵ月間、文部省在外研究員として、米国スタンフォード大学脳外科学教室で研究する機会を得ました。サンフランシスコ国際空港から約30km、サンフランシスコのダウンタウンからは約50km、湾岸沿いのフリーウェイUS-101を南下するとスタンフォード大学のあるパロ・アルトの町が見えてきます。霧が多いサンフランシスコに比べ、パロ・アルト周辺はカラッとした気候で、夏などは刺すような日差しが降り注ぐ日が続きます。

US-101を降りて University Avenue を西に行くと、大学の門とそれに続くパームツリーの並木道が見えてきます。そして、その奥にはモザイク壁画とステンドグラスが美しいスタンフォードメモリアルチャーチがあります。広大なキャンパスには、長期にわたる改修の後、最近、装いも新たにオープンした美術館があり、その隣には代表作「地獄門」をはじめとするロダンの作品約20点が展示されているロダン彫刻庭園があります。また、いたるところで野生のリスが戯れ、夏にはハチドリが花に集まるという大変恵まれた環境です。



スタンフォード大学の図書館前に立つ「ドラえもん」の像(表紙写真の手前にも青く小さく写っている)。最近ではポケモンが海外でも大変な人気ですが、日本のアニメはそれ以前から世界中で親しまれていることをスタンフォードに来て初めて知りました。

一歩町へでてみると、パロ・アルトはシリコンバレーの一角にあり、現在絶好調のアメリカ経済を牽引するIT関連企業とバイオベンチャー企業が周辺に集まっているため、University Avenue周辺と大学に隣接するスタンフォードショッピングセンター周辺にはおしゃれな店が立ち並んでいます。その中でもひとときおしゃれな作りのレストランはカリフォルニア料理のお店で、代表的なところではハリウッドに本店があるというスパゴやクリントン大統領も来たことがあるというカリフォルニア・カフェなどがあります。

健康に人一倍気を使うカリフォルニアの人々は、油が少なく味付けの軽いヘルシーな料理を好み、カリフォルニア料理と呼ばれる新しいカテゴリーの料理がつくられています。私も友人やラボの人たちと何度かカリフォルニア料理なるものを食べに行きましたが、そこでは、比較的あっさりした、(アメリカにしては)量も少なめの、そして見た目に美しく盛りつけられた料理を味わうことができました。使っている素材も日本料理、中華料理、タイ料理など様々な国の食材を使っており、その使い方も、例えばシーフードスープの中にウドンが入っていると、餃子の皮でウナギを包んであるなどの挑戦的なものも見られました。

味に関していえば、「ウドン入りシーフードスープ」や「ウナギの餃子皮包み揚げ」が驚くほど美味しいものであったわけではありませんが、そこには、オリジナルな料理を創作しようという意気込みと、新しい食材をどんどん取り入れる柔軟さがあり、コンピューターサイエンスやライフサイエンスの分野において優れた基礎研究がなされているだけでなく、その成果をいち早く産業に結びつけ発展させていくカリフォルニアという地域の活力が料理にも現れているように思われました。また、「健康に人一倍気を使う」ことは厳しい自己管理の一環であり、カリフォルニア料理と呼ばれるような新しい料理のカテゴリーを生み出すほどにまで「気を使う」のは、正しいと考えたことは徹底的に実行するアメリカ的な考え方によるものだと思います。

翻って日本のことを考えますと、米国から帰国してこの1年余り、新聞やテレビのニュースで聞いたのは、「日本経済は回復に向かいつつあるものの未だ予断を許さず」といった暗い話題が多かったように思います。カレーパンやタラコスパゲティなどの例を挙げるまでもなく、日本人が創りあげてきた「日本料理」の柔軟性はカリフォルニア料理にひけ

をとらないどころか数段上かもしれません。あとは、「新しいものに果敢に挑戦する意気込み」とか「厳しい自己管理」とか「正しいと思ったことを貫く強い精神力と実行力」などの味の利かせ方を思い出せば、すばらしい出来になると私は思うのですが。

(みなみ まさぶみ 大学院薬学研究科助教授)

洛書

ベルリンの壁と茶碗

柏倉 康夫

手元に径15センチほどの白肌の茶碗がある。茶碗の底には金色の突起があって、ベルリンの壁の破片が焼き込まれている。破片に土を巻き、金色の釉薬をかけたもので、ニューヨーク在住の陶芸家が制作してくれた。

1989年11月、東西ベルリンを隔てる壁が崩壊したとき、ジャーナリストとしてこの歴史的な事件取材していた。9日の夜に、東ドイツ政府が旅行の自由化を決断したことから、東ベルリンの人々が壁を越えて西側へ入った。1961年に壁が築かれて以来、厳しく制限されてきた通行が許可された瞬間だった。翌日からベルリンは大騒ぎになった。音信が絶えたままの親戚を探す人たちがいた。壁を越えて初めて西側にやって来た少女は、凍てつくような厳冬でも果物屋にバナナがあるのを見て感激した。そして西側の人たちは、手に手に金槌をもって壁に取り付き、自分たちの手で壁を壊しはじめた。

私もこの様子取材すべく駆けつけると、一人の少女が寄ってきて金槌を差し出し、「1マルクくれれば貸してあげる」という。取材を済ませたあと、彼女の申し出を喜んで受け、みなと並んで壁を叩いた。こうして恨みをこめた文字や絵が描かれていた

壁の破片が手に入ったのである。何千人、何万人の力はあつという間に壁のあちこちに穴をあけた。その結果分かったのだが、長年にわたって東西世界を分断してきた壁は、中が空洞だったのである。一人一人が立って通れるほどの空間があり、人々はそこにもぐり込んで反対側の壁にも穴を穿った。数日後には、人々はこうした穴を通して東ベルリンへ抜け、ブランデンブルク門のわきに臨時に作られた検問所を通して西に帰ってきた。東の警備兵はそれをとがめなかった。壁の周囲でもう一つ目立ったのは、ゴルバチョフ議長の等身大の人形がずらりと並んでいたことである。人形には「ダンケ・シェーン、ゴルビー」と書かれていた。

ベルリンの壁はすべて取り壊され、いまや完全に姿を消した。手元にあった壁の破片も、人に差し上げたりしていつの間にかなくなり、唯一残ったのは茶碗に焼き込まれた破片だけとなった。壁崩壊から10年目の去年11月9日には、この茶碗でお茶を点てた。金槌を貸してくれた少女は、いまどうしているだろうか。

(かしわくら やすお 大学院文学研究科教授)

保健コーナー

胃の感染症

保健診療所で学生、教職員が受診する疾患の中で、腹痛などをしめず胃腸の疾患が感冒などの上気道の呼吸器疾患に次いで多くを占めている。その中で胃や十二指腸の病気も多く見られる。今回のコーナーでは、胃癌や胃十二指腸潰瘍の病因に大きく関わり、最近話題になっているヘリコバクター・ピロリ菌（ピロリ菌：H.pylori）について焦点を合わせて述べてみたい。

先進国といわれる国々の中で日本は胃癌が群を抜いて多い。日本人の胃は、中年以降になるとかなりの人に胃粘膜の萎縮がみられる。胃痛、胃もたれや胃部不快感などの症状で胃の検査（胃レントゲン検査または胃カメラ）をしてみると、大半が萎縮性胃炎の病名をつけられている。この胃粘膜の萎縮性変化は、一昔前までは加齢現象であると医師自身も認識していて、患者にもそういう説明をしてきた。萎縮性胃炎において、萎縮した胃粘膜に様々な胃内環境（発癌物質や食塩など）や遺伝的素因が加わると胃癌が発生することは以前から解っていた。この胃粘膜の萎縮を起こす病因として、H. pyloriの胃粘膜への感染が重要であることが判明してきた。

一方、胃十二指腸潰瘍（消化性潰瘍）の患者では、H. pylori感染率が80～90%であり、この細菌を抗生物質などで除菌すると胃十二指腸潰瘍は再発が非常に少なくなるなど、H. pyloriが消化性潰瘍の主要な病因であることがわかってきた。

ところで、日本人のH. pylori感染率は10歳以下で5%、10歳代で20%、20歳代で25%と先進国なみの低率であるが、40歳以上になると70%以上と開発途上国なみに高い。感染率の低い10、20歳代の胃十二指腸潰瘍（消化性潰瘍）の患者でも、H. pylori感染率が80～90%であることから、H. pyloriが消化性潰瘍の重要な病因であることがわかる。中年の高い感染率は戦後の衛生状態の良くない時代に出生した人が高頻度にこの菌に感染したと推測されている。この細菌の感染経路としては糞～口感染および口～口感染などの経口感染であり、媒介物（家畜、

ペット、蠅など）～口感染も知られている。

慢性の感染の成立には、幼児期の免疫不完全時にH. pylori菌に汚染された飲食物を摂取することが大きく関わっているが、成人してもそうした不衛生な飲食物を避ける必要があることは言うまでもない。

胃内が強い酸性環境にあり、無菌に近いと信じられてきたが、H. pyloriは、強い酸性の環境のなかで生息できるいろいろな手段を保持している上、胃粘膜上皮に接着して細胞障害性物質を放出して胃粘膜内に白血球を呼び寄せ、胃炎を惹起する。H. pyloriを摂取させた動物において、その動物が胃炎を起こし、胃炎の持続によりヒトと酷似した胃潰瘍ができることが証明された。また再発を繰り返す消化性潰瘍にH. pylori除菌という臨床的な介入により再発が阻止されることなどからH. pyloriが消化性潰瘍の重要な病因であると結論されている。十二指腸潰瘍におけるH. pylori感染率は胃潰瘍以上に非常に高く、H. pyloriの除菌による再発防止効果も優れている。しかし、胃潰瘍においては、H. pylori感染以外の要因がかなり存在している。

胃炎が慢性化すると、胃の固有の細胞や胃腺が脱落していき萎縮性胃炎に進行する。萎縮した胃腺は外界あるいは内部からの発癌環境に非常に感受性があるとされており、また動物モデルにおいて、H. pylori感染による胃癌の発生が報告されている。疫学的研究からH. pylori感染と胃癌の罹患の関係が証明され、H. pylori感染が重要なリスク病因であることが推測され、WHO/IARC（世界保健機関/国際がん研究機関）では「H. pyloriが確実な発癌要因である」と結論された。

このように胃十二指腸疾患の主要な部分にH. pyloriが関与していることから、今後人間ドックなど健康診断におけるH. pyloriの検出が一般化するものと思われる。また現在日本で認可が遅れているH. pyloriに対する除菌療法が広まるものと考えられる。

（保健診療所長 青野 充）

随想

多様化時代の地域づくりと社会基盤の整備計画

名誉教授 吉川 和広

地球社会のフロントランナーの一員となったわが国においては、経済的な豊かさとともに、精神的な豊かさが求められ、安全で安心してゆとりとうるおいに満ちた人びとの多様な暮らしを実現することのできる地域づくりが重要となってきた。このためには、従来の国主導の画一的な地域開発から、地域自らの選択と責任による多様性に富んだ地域づくりへと転換していくことが必要である。そして、Citizen Involvement の手法を取り入れて、多様な主体の参加を求めることにより、地域づくりに民意を広く反映させていかなければならない。

21世紀の地域づくりにおいては、多様性が強く求められるようになり、そのための多目的計画論の展開が必要となってきた。多様化時代の社会システムにおいては、計画目的は往々にして多元的とならざるを得ない。しかも、これら多元的な目的の間には、トレード・オフ (trade off) というやっかいな関係が生じてしまうことが多い。このため、多目的計画問題においては、最適解 (optimal solution) が存在せず、人びとの英知を集めて選好解 (preferred solution) を求めていかなければならない場合が殆んどである。選好解とは、計画の参加者であるそれぞれの人々が、お互いに不満 (regret) を分かちあい、調和を求めて努力していくことにより初めて求め得る解である。

それでは、最近マスコミをにぎわせたので御記憶の方もおられることと思うが、筆者が計画づくりに参画した二つの事例研究について、その概要を紹介していくこととしよう。

その一つは、和歌山下津港の港湾計画を対象として、港湾機能増強のための高規格コンテナターミナル整備の要請と、コンテナターミナル基地に隣接した雑賀崎地区の景観保全という要請に応えるための検討を行ったものである。万葉集に詠まれた景勝地雑賀崎の原景観の中に人工的な埋立地を配置した場合の人びとの印象の変化について、数多くのモンタ



ージュ写真を用いて分析するとともに、景観工学の専門家集団の知見をフルに活用した討議を繰り返すことにより、自然景観に対して極力違和感を感じさせないような埋立計画を策定した。これは、いままでの港湾機能のみを重視した港湾計画より埋立の規模を大幅に縮小したものとなってしまったが、景観保全という観点からは、人びとにより受け入れやすい港湾計画となり、選好解が求められたと考えている。

他の一つは、関西国際空港の陸上ルートと航空機騒音の問題である。関西国際空港においては、現行の海上ルートでの離着陸能力はすでに限界に達し、二期事業完成後の空港能力を十分に活用できるような対応策を早急に作成していくことが必要となってきた。このため、最近開発された「ターミナルATCシミュレーター」を用いて、航空管制シミュレーションを行うことにより、すでに限界に達している離着陸能力を増大させるための新たな飛行経路について検討を行った。新しい飛行経路では、航空機は陸上部を通過することとなるため、航空機騒音の予測が重要となってくる。このため、FAA (米国連邦航空局) によって開発されたINM (Integrated Noise Model) Ver. 5 を関西国際空港における実績値を用いて改良した騒音予測モデルを用いることにより、新しい飛行経路での騒音予測コンターを求めた。そして、WECPNL70 (うるささ指数) の騒音コンターは海上部におさまり、陸上部にはかからないことが明らかとなった。さらに、新しい飛行経路 (陸上ルート) について実機テストを実施し、関係住民の方々に、航空機騒音が予測の範囲内であることを確かめていただいた。この結果、航空機の安全運行と騒音問題の双方を解決することができる新しい飛行経路が設定された。さらに、地元住民の理解を増すため、関西国際空港においては、「環境管理計画」(Environmental Management Program) の作成を急いでいる。

(よしかわ かずひろ 元工学部教授

平成6年退官、専門は土木計画学)

資料

平成12年度入学試験諸統計

1. 募集人員・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
総合人間 学 部	前期文系	55 ^人	224 ^人	220 ^人	216 ^人	57 ^人			134 ^人
	前期理系	55	237	231	227	57			
	後 期	20	379	320	202	20			
文 学 部	前 期	190	629	629	623	194			225
	後 期	30	412	301	138	31			
教育学部	前 期	40	165	160	159	42			63
	後 期	20	168	145	91	21			
法 学 部	前 期	320	838	838	823	325			358
	後 期	20	471	341	101	33			
経済学部	前期一般	160	619	619	611	160	4		238
	前期論文	50	278	278	259	52			
	後 期	20	676	676	450	30			
理 学 部	前 期	271	968	949	937	271	6	6	301
	後 期	30	1,062	1,038	727	30			
医 学 部	前 期	90	481	421	413	93			105
	後 期	10	264	151	78	12			
薬 学 部	前 期	70	193	193	187	72	1	1	82
	後 期	10	133	133	87	10			
工 学 部	前 期	874	2,481	2,480	2,449	875	3		975
	後 期	101	1,335	1,285	702	103			
農 学 部	前 期	240	751	751	736	249	2		311
	後 期	60	807	807	506	64			
小 計	前 期	2,415	7,864	7,769	7,640	2,447			
	後 期	321	5,707	5,197	3,082	354			
合 計		2,736	13,571	12,966	10,722	2,801	16	7	2,792

〔外国人学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	募集人員	志願者数	第1段階選考合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	入学者数
法 学 部	20人以内	47 ^人	28 ^人	18 ^人	10 ^人	1 ^人	9 ^人
経済学部	10人以内	33	18	12	6		6

<工学部・農学部学科別内訳>

学部(学科)・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	追加合格者数	入学者数		
工学部	前期	874 [^]	2,481 [^]	2,480 [^]	2,449 [^]	875 [^]	3 [^]		975 [^]		
	後期	101	1,335	1,285	702	103					
地球工学科	前期	175	479	479	736	175	2		194		
	後期	20	358	358		21					
建築学科	前期	80	238	237		80				90	
	後期	10	122	81		10					
物理工学科	前期	211	640	640		212				236	
	後期	24	410	410		24					
電気電子工学科	前期	117	308	308		117				130	
	後期	13	217	217		13					
情報学科	前期	81	215	215		81	1			90	
	後期	9	81	72		10					
工業化学科	前期	210	601	601		210				235	
	後期	25	147	147		25					
農学部	前期	240	751	751		736	249		2		311
	後期	60	807	807		506	64				
生物生産科学科		104	(合格者数) 108 (前期86 後期22)						108		
生物機能科学科		110	(合格者数) 114 (前期91 後期23)						114		
生産環境科学科		86	(合格者数) 91 (前期72 後期19)				2		89		

2. 合格者 最高点・最低点(総点)調

学部	日程	満点	総点	
			最高点	最低点
総合人間学部	前期	800	581.66	450.00
	後期	800	529.00	413.25
文学部	前期	800	553.00	468.33
	後期	700	567.83	459.25
教育学部	前期	700	505.75	456.75
	後期	900	639.91	533.24
法学部	前期	900	588.32	503.08
	後期	750	593.75	446.25
経済学部	前期	500	416.50	377.25
	後期	800	625.00	478.50
理学部	前期	1,000	758.16	486.50
	後期	950	520.95	445.50
医学部	前期	650	455.00	328.00
	後期	400	281.00	224.00
薬学部	前期	1,250	1,057.75	850.25
	後期	1,400	1,072.35	948.55
工学部	前期	950	720.00	570.58
	後期	950	704.12	588.00
	後期	1,000	766.91	529.25

工学部学科別	日程	満点	総点	
			最高点	最低点
地球工学科	前期	1,000	764.25	542.83
建築学科		1,000	693.91	540.58
物理工学科		1,000	738.50	563.58
電気電子工学科		1,000	747.91	550.66
情報学科		1,000	766.91	579.41
工業化学科		1,000	722.50	529.25
地球工学科		後期	1,100	794.25
建築学科	後期	(A選抜)	500	304.00
		(B選抜)	650	350.00
物理工学科	後期	1,100	821.50	716.00
電気電子工学科		1,100	779.00	700.25
情報学科		300	230.00	173.00
工業化学科		1,000	784.00	536.00
農学部	前期	1,050	740.83	579.50
	後期	810	547.43	448.03

(備考) 1) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
 2) 総点については、前期・後期とも合格発表時のものである。

3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別調

上段...志願者数
下段...入学者数

都道府県	学 部										計
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	
北海道	29	19	4	19	18	29	11	3	39	19	190
東 北	青 森	6	4	2	2	5	6	1	1	5	38
	岩 手	4	2		6	2	1	1	2	1	19
	宮 城	9	11	1	9	10	18	2	1	13	82
	秋 田	3	4	1		4	11		2	3	31
	山 形	3	6		4	4	2	1		1	21
	福 島	5	4	5	5	6	15	2		4	48
	茨 城	16	12	4	10	9	32	3		34	138
	栃 木	6	8		5	11	6	6		13	55
関 東	群 馬	12	10	2	10	7	19	3	3	17	84
	埼 玉	13	21	4	10	21	52	14	6	49	208
	千 葉	23	19	5	4	42	68	10	9	48	252
	東 京	105	79	27	67	124	212	58	15	132	912
	神奈川	46	39	13	20	64	92	26	4	64	406
	新 潟	10	7	2	6	9	13	7		14	75
	富 山		7			5	8	2	2	9	41
	石 川	2	11	6	11	8	17	6		21	89
中 部	福 井	9	17	4	18	19	5	4	6	32	121
	山 梨	4	5	2	4	3	11	1		3	37
	長 野	13	13	4	12	16	31	4	6	24	139
	岐 阜	19	24	5	27	20	31	9	5	33	185
	静 岡	19	16	11	26	21	40	7	9	73	256
	愛 知	52	48	22	90	77	145	37	30	252	859
	検 定	14	12	1	13	19	36	15	8	16	142
	そ の 他		1			1	2				4
合 計	840	1,041	333	1,309	1,573	2,030	745	326	3,816	1,558	13,571

都道府県	学 部										計	
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農		
近 畿	三 重	16	15	2	16	23	38	9	9	58	23	209
	滋 賀	16	37	3	19	30	40	4	6	104	31	290
	京 都	40	118	25	171	225	120	79	35	420	195	1,428
	大 阪	120	138	48	250	264	301	120	70	864	356	2,531
	兵 庫	64	62	35	148	173	163	118	22	479	177	1,441
	奈 良	20	56	12	88	114	99	40	14	336	110	889
	和歌山	6	13	11	17	22	29	19	5	70	28	220
	鳥 取	2	11	3	7	8	4	3	2	6	5	51
中 国	島 根	4	4		3	3	4	6	1	11	3	39
	岡 山	7	30	6	20	26	42	7	5	81	35	259
	広 島	10	23	7	42	27	47	25	9	57	37	284
	山 口	7	13	5	13	13	14	1	3	41	2	112
	徳 島	3	7	2	13	6	8	4		21	4	68
	香 川	10	13	9	20	16	30	6	2	66	13	185
	愛 媛	8	8	5	17	7	21	19	4	36	6	131
	高 知		7	1	7	5	11	5	2	17	10	65
九 州	福 岡	30	41	14	29	36	62	22	7	136	31	408
	佐 賀	3	1	2	7	7	17	3	1	16	4	61
	長 崎	8	6		8	4	9	1	4	18	9	67
	熊 本	7	13	4	6	7	20		5	23	11	96
	大 分	3	9		8	7	3		1	14	5	50
	宮 崎	2	2	2	6	8	5	5	4	8	3	45
	鹿児島	30	14	10	14	13	37	16	3	25	19	181
	沖 縄	2	1	2	2	4	4	3		9	2	29
合 計	840	1,041	333	1,309	1,573	2,030	745	326	3,816	1,558	13,571	

(備考) 外国学校出身者のための選考を除く。

4 . 志願者・入学者 入学資格取得年別調

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 12 . 3卒	浪 人 11 . 3卒	浪 人 10 . 3卒	浪 人 9 . 3卒	浪 人 8 . 3以前卒	総 数	現 役 12 . 3卒	浪 人 11 . 3卒	浪 人 10 . 3卒	浪 人 9 . 3卒	浪 人 8 . 3以前卒
総合人間 学 部	人 840	人 552	人 203	人 45	人 11	人 29	人 134	人 83	人 44	人 7	人 人	人 人
	検 14	検 9	検 2			検 3	検 1	検 1				
		65.7%		34.3%				61.9%	38.1%			
文 学 部	1,041	659	308	35	9	30	225	133	83	6		3
	検 12 他 1	検 6 他 1	検 2			検 4						
		63.3%	36.7%				59.1%	40.9%				
教育学部	333	204	102	12	8	7	63	38	21	1	1	2
	検 1					検 1						
		61.3%	38.7%				60.3%	39.7%				
法 学 部	1,309	865	357	38	16	33	358	228	116	9	3	2
	検 13 専 1	検 3		検 1	検 3	検 6 専 1	検 2				検 1	検 1
		66.1%	33.9%				63.7%	36.3%				
経済学部	1,573	865	467	125	36	80	238	129	91	12	3	3
	検 19 専 2 他 1	検 2 専 1 他 1	検 7 専 1	検 3	検 1	検 6 専 1	検 1 他 1		検 1			
		55.0%	45.0%				54.2%	45.8%				
理 学 部	2,030	1,179	516	135	57	143	301	186	98	14	2	1
	検 36 他 2	検 9 他 2	検 12	検 7	検 2	検 6	検 1 他 1				検 1	
		58.1%	41.9%				61.8%	38.2%				
医 学 部	745	291	147	62	38	207	105	50	43	9	1	2
	検 15	検 3	検 5			検 7						
		39.1%	60.9%				47.6%	52.4%				
薬 学 部	326	188	72	18	7	41	82	51	28	3		
	検 8	検 1	検 3		検 2	検 2						
		57.7%	42.3%				62.2%	37.8%				
工 学 部	3,816	2,440	1,083	179	43	71	975	601	339	29	3	3
	検 16 専 1	検 5 専 1	検 3 専 1	検 1	検 4	検 3	検 4 検 3 検 1					
		63.9%	36.1%				61.6%	38.4%				
農 学 部	1,558	881	459	108	37	73	311	170	122	14	4	1
	検 8	検 2	検 1		検 1	検 4						
		56.5%	43.5%				54.7%	45.3%				
合 計	13,571	8,124	3,714	757	262	714	2,792	1,669	985	104	17	17
	検 142 専 4 他 4	検 34 専 2 他 4	検 39 専 2	検 14	検 13	検 42 専 2	検 9 他 2	検 4 他 2	検 2		検 2	検 1
		59.9%	40.1%				59.8%	40.2%				

〔外国学校出身者のための選考に係る入学資格取得年別調（外数）〕

学 部	志 願 者			入 学 者		
	総 数	現 役 12 . 3卒	浪 人 11 . 3以前卒	総 数	現 役 12 . 3卒	浪 人 11 . 3以前卒
法 学 部	人 47	人 42	人 5	人 9	人 8	人 1
	他 47	他 42	他 5	他 9	他 8	他 1
		89.4%	10.6%		88.9%	11.1%
経済学部	33	32	1	6	6	
	他 33	他 32	他 1	他 6	他 6	
		97.0%	3.0%		100.0%	

検...大学入学資格検定合格者
 専...高等専門学校出身者
 他...その他の入学資格取得者

お知らせ

平成12年度創立記念行事音楽会

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記のとおり音楽会を開催いたします。本学学生・教職員の来聴を歓迎します。

記

名 称 バロック音楽への誘い
 演 奏 者 コレギウム・ムジクム・テレマン
 指揮，オーボエ 延原 武春
 チェンバロ 中野 振一郎
 ヴァイオリン 中山 裕一
 日 時 6月16日（金） 開場：午後5時30分
 開演：午後6時30分
 終演：午後8時30分（予定）
 会 場 京都コンサートホール（京都市左京区下鴨半木町1-26）

プログラム

《第一部》（約40分）

テレマン : 3本のトランペットのための協奏曲 二長調
 ヴィヴァルディ : 「四季」より “春”
 アルピノーニ : オーボエ協奏曲 二短調

休 憩（20分間）

《第二部》（約40分）

バッハ : チェンバロ協奏曲 第1番 二短調 BEV1052
 バッハ : 管弦楽組曲 第3番 二長調 BWV1068
 （「G線上のアリア」を含む）

演奏者略歴

コレギウム・ムジクム・テレマン

コレギウム・ムジクム・テレマンは、1963年に延原武春が結成したテレマン室内管弦楽団を母体とする日本で唯一の固定メンバーによるバロック楽器の団体です。83年、バロックチェリスト、アンナ・ビルスマとの共演を機にオリジナル楽器での演奏に取り組み始め、バロックヴァイオリンの鬼才、サイモン・スタンデイジの指導のもとで急成長を遂げ、90年にはスタンデイジ主催の「コレギウム・ムジクム '90」と提携を結びました。また同年、我が国を代表するチェンバリスト中野振一郎がディレクターに就任し、同氏独特の演出力と圧倒的な音楽性の高さで多くの聴衆を魅了し続けています。99年2月のドイツ招聘演奏旅行では、ディレクター中野振一郎のもとで見事に聴衆を沸かせ、バロック音楽の魅力を国際的にアピールすることが出来ました。延原武春の妥協を見せない日々の指導により、近年メンバー個々の成長はめざましいものがあります。海外での活動も活発で、これまでに多くの国々より招きを受け、過去4度のドイツ公演、フランス公演、韓国公演、あるいはイギリスでのデビューコンサート等いずれも高い評価を得ています。こうした活発な演奏活動・功績に対して、これまでに各界より数多くの賞が授与されていますが、なかでも「第17回サントリー音楽賞」や「文化庁芸術祭優秀賞」の受賞は、この楽団の日本における評価を決定的なものにしました。

備 考：入場無料（入場の際は、本学学生証または職員証を呈示してください。）

プログラムは当日会場で配布します。

定員は1,600人、先着順とします。演奏中は入場できません。

附属図書館宇治分館の開館

宇治地区の5研究所共通図書室が「国立大学の附属図書館に置く分館を定める訓令」の一部改正により、4月1日から附属図書館宇治分館として新たにスタートしました。

宇治分館は5研究所共通図書室と4部局専用図書室を統合したもので、附属図書館利用証で利用できます。開館状況は下記のとおりですので、今まで以上にご利用ください。

記

開館時間：

月曜日から金曜日までの午前9時から午後5時まで

休館日：

- ① 土曜日及び日曜日
- ② 国民の祝日等
- ③ 12月28日（その日が土曜日に当たるときはその翌日、日曜日に当たるときはその翌々日）から翌年1月4日（その日が土曜日に当たるときはその翌日、日曜日に当たるときはその翌日）まで

時間外利用（夜間開館）：

下記の時間帯に閲覧と複写の時間外利用を実施しています。なお、利用にあたっては、宇治分館学術情報掛で発行する時間外利用証が必要です。

- ① 開館日の午後5時から午後9時30分まで
- ② 土曜日（祝日等と年末年始を除く）の午前9時から午後9時30分まで

担当掛：

宇治分館学術情報掛（附属図書館総務課学術情報掛）

電話：0774-38-3009

（附属図書館）